

厚生労働大臣の定める先進医療及び患者申出療養並びに施設基準の一部を改正する件

○厚生労働省告示第三百二十六号

厚生労働大臣の定める評価療養、患者申出療養及び選定療養（平成十八年厚生労働省告示第四百九十五号）第一条第一号の規定に基づき、厚生労働大臣の定める先進医療及び患者申出療養並びに施設基準（平成二十年厚生労働省告示第二百二十九号）の一部を次の表のように改正し、令和八年一月一日から適用する。

令和七年十二月二十六日

厚生労働大臣 上野賢一郎

改正後	改正前
<p>第二 先進医療ごとに定める施設基準に適合する病院又は診療所において実施する先進医療</p> <p>一〇二十九 (略)</p> <p>三十 標準治療終了前におけるがんゲノムプロファイリング検査</p> <p>イ 対象となる負傷、疾病又はそれらの症状</p> <p>進行再発固形がん（関連学会の化学療法に関するガイドライン等に基づき、全身状態及び臓器機能等から、当該検査実施後に化学療法との適応となる可能性が高いと主治医が判断した患者（標準治療が対象となる進行再発固形がん患者に限る。）であつて、標準治療が終了する前の患者（局所進行又は転移が認められ標準治療が終了見込みとなる進行再発固形がん患者を除く。）に係るものに限る。）</p> <p>ロ 施設基準</p> <p>(1) 主として実施する医師に係る基準</p> <p>① 専ら内科、小児科又は病理診断科に従事し、当該診療科について五年以上の経験を有すること。</p> <p>② がん薬物療法に関する専門的な知識及び技能を有する医師であること。</p> <p>(2) 保険医療機関に係る基準</p> <p>① 内科、小児科又は病理診断科を標榜<sup>ほう</sup>していること。</p> <p>② 実施診療科において、がん薬物療法の経験を有する常勤の医師が配置されていること。</p> <p>③ 実施診療科において、病理診断の経験を有する常勤の医師が配置されていること。</p> <p>④ 臨床検査技師が配置されていること。</p> <p>⑤ 病床を百床以上有していること。</p> <p>⑥ 当該療養を実施する病棟において、一日に看護を行う看護職員の数、常時、入院患者の数が七又はその端数</p>	<p>第二 先進医療ごとに定める施設基準に適合する病院又は診療所において実施する先進医療</p> <p>一〇二十九 (略)</p> <p>(新設)</p>

(傍線部分は改正部分)

を増すごとに一以上であること。ただし、当該病棟において、一日に看護を行う看護職員の数が本文に規定する数に相当する数以上である場合には、当該病棟における夜勤を行う看護職員の数が、本文の規定にかかわらず、二以上であること。

⑦ 当直体制が整備されていること。

⑧ 緊急手術体制が整備されていること。

⑨ 二十四時間院内検査を実施する体制が整備されていること。

⑩ 医療機器保守管理体制が整備されていること。

⑪ 倫理委員会が設置されており、必要な場合に事前に開催すること。

⑫ 医療安全管理委員会が設置されていること。

⑬ 検査を委託して実施する場合には、衛生検査所であつて、当該検査の実施に当たり適切な医療機器等を用いるものに委託すること。

⑭ 当該検査を行うにつき、がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療拠点病院又はがんゲノム医療連携病院に該当する等十分な体制が整備されていること。

第三 先進医療を適切に実施できる体制を整えているものとして厚生労働大臣に個別に認められた病院又は診療所において実施する先進医療

一〇十八 (略)

十九 削除

二〇〇三十六 (略)

三十七 削除

三十八〇五十八 (略)

五十九 血中循環腫瘍DNAを用いたマルチプレックス遺伝子パネル検査 進行又は再発大腸がん(切除不能なものに限る。)

第三 先進医療を適切に実施できる体制を整えているものとして厚生労働大臣に個別に認められた病院又は診療所において実施する先進医療

一〇十八 (略)

十九 プローブ型共焦点レーザー顕微内視鏡による胃上皮性病変の診断 胃上皮性病変

二〇〇三十六 (略)

三十七 ラメルテオン経口投与療法 悪性腫瘍(六十五歳以上の患者に係るものに限る。)

三十八〇五十八 (略)

(新設)